

本資料は、タペストリー・インクが2022年4月7日(木)午前7時(日本時間:同日午後8時)に発表したプレスリリースの日本語翻訳版です。

<報道関係者各位>

タペストリー財団、 ブラジルにおける先駆的な皮革トレーサビリティプログラム実施のため 世界自然保護基金(WWF)に300万ドルの助成金を贈ることを発表

*タペストリーとWWFは本プログラムの領域及び規模の拡大に向け
業界横断的な企業の参画を呼びかけていく意向*

ニューヨーク 2022年4月7日 - ニューヨークに本拠地を置き、コーチ、ケイト・スペード、スチュアート・ワイツマンをグローバル展開するモダンラグジュアリー アクセサリー&ライフスタイルのマルチブランド企業であるタペストリー・インク(NYSE:TPR)は、本日、社会的・環境的イニシアチブを通じて公正性と機会の促進に取り組むタペストリー財団から300万ドルの助成を受け、世界自然保護基金(WWF)とパートナーシップを締結したことを発表しました。この助成金は、より持続可能な業界の未来を推進するため、ブラジルにおける皮革バリューチェーンのトレーサビリティを向上させる革新的なシステムを開発するために使われます。このパートナーシップは、他の業界でも採用可能な責任あるサプライチェーンを支援するタペストリーの継続的な取り組みにおける最も新しいイニシアチブです。

このプログラムの目的は、森林破壊及び転用のない(DCF: deforestation and conversion-free)ブラジル産レザーの認証基準確立を加速することで、アマゾン及びセラード生態系における牧畜に起因する森林破壊を防止することです。また助成金の一部は、これらの生態系で最もリスクの高い地域での森林再生活動に充てられ、現地のコミュニティー・パートナーと協力して森林破壊と気候変動が地域の最も影響を受けやすい人々にもたらす喫緊の脅威に対処していきます。

タペストリー・インクの最高経営責任者であり、タペストリー財団の会長であるジョアン・クレヴォイセラは「私たちは高級レザーグッズのグローバルリーダーとして、これまでも皮革のトレーサビリティに投資してきましたが、今後も投資を継続することで既に達成された成果をさらに発展させていきます。また、タペストリー財団からの助成金により、森林再生活動を通じた迅速な行動をとると同時に、長期的かつ持続可能なソリューションによって気候変動に対処するという私たちのコミットメントを明確化します。さらに、業界内外を問わず他の企業に対し、これらの取り組みへの参画を呼びかけていく意向です」と述べています。

タペストリー・インクの取締役会会長であり、タペストリー財団のメンバーであるアン・ゲイツは「タペストリー財団はアクセスと機会向上に焦点を当てた社会的・環境的プログラムを支援する地域密着型の大胆なソリューションに投資することで、可能性を追求していくために設立されました。WWFとのパートナーシップは、気候変動の影響に対処するために必要な協働の一例であり、特定のセクターだけでなく、広範な業界に有意義なインパクトをもたらすソリューションに取り組む力を示す一例でもあります」と述べています。

WWFの牛肉・皮革サプライチェーン担当シニアディレクターであるマウリシオ・バウアー (Mauricio Bauer, Senior Director, Beef and Leather Supply Chains)は「皮革業界は、現行のプロセスを超越する、科学的根拠に基づくデータ主導型の認証確立が可能であり、またそうすべきだと私たちは信じています。本プログラムは、政府機関や他の市場関係者と協力して、トレーサビリティを強化し、明確な管理の連鎖を提供するシステムを構築するものです。タペストリー財団によるこの重要な投資は、業界が協力して必要な研究成果を集約し、環境と地域社会の両方に有用な基準を作成するために役立ちます」と述べています。

タペストリーの素材開発・企画担当シニアディレクター、デビッド・ライト (David Wright, Senior Director, Materials Development and Planning)は「私たちのチームメンバーは10年以上にわたってWWFと緊密に協働しており、レザー・ワーキング・グループ (Leather Working Group)とも長年の関係を築いています。また、WWF、全米野生生物連盟 (National Wildlife Federation)、ウイスコンシン大学と連携して、原皮の生産地から製品革に至る皮革サプライチェーンのマッピングとトレーサビリティの開発で先駆的な役割を担ってきました。さらに何ができると考えたとき、私たちはすぐに共通のビジョンを持っていることに気づきました。環境再生型農業への取り組みと並行して、皮革のバリューチェーン全体を改善し、世界で気候変動の影響を最も受けやすい地域における生物多様性の回復を支援することができます」と述べています。

タペストリーとWWFは、このような必要不可欠なトレーサビリティの取り組みで、組織間の連携が拡大していくことに期待しています。今後数ヶ月のうちに、各業界のリーダーと会合を開き、この複雑な課題に対処するために必要な投資、専門知識、領域、規模を備えた包括的なネットワークを構築していく予定です。

今回の発表は、タペストリーが事業を展開する地域において、生物多様性の取り組みを推進し、天然資源への影響を最小限に抑えるという私たちのコミットメントと合致するものです。今年の初め、タペストリーは環境再生型農業のための初の検証済み調達ソリューションであるセイボリー研究所 (Savory Institute) のランド・トゥ・マーケット・プログラム (Land to Market Program)と新たなパートナーシップを開始しました。環境にプラスの影響を与える再生可能な原材料を利用することで、タペストリーは生物多様性の向上と炭素の排出量削減を目指します。

タペストリー財団について

タペストリー財団は、グローバルコミュニティの活力を育みながら、アクセスと機会向上に焦点を当てた社会的・環境的プログラムを支援することで、無限の可能性を追求することに取り組んでいます。2021年秋、タペストリー財団はファッション工科大学のソーシャル・ジャスティス・センター (Social Justice Center) の共同創設者として 100 万ドルを拠出しました。これは黒人、先住民、有色人種 (BIPOC) コミュニティーのためにクリエイティブ産業における機会を拡大し、社会的公正を促進するために設立されたこの種で初めての高等教育イニシアチブです。またタペストリー財団では、従業員マッチングギフトやボランティア助成プログラム (Tapestry Gives)、従業員リソースグループへの慈善活動助成金、グローバルな災害対応など、従業員の寄付プログラムを支援しています。タペストリー財団の詳細については www.tapestry.com/responsibility をご覧ください。

タペストリー・インクについて

タペストリー・インクは、コーチ、ケイト・スペード ニューヨーク、スチュアート・ワイツマンのそれぞれが持つ魅力を集結させたグローバルなマルチブランド企業です。各ブランドが唯一無二の個性をもつ存在でありながら、独自性のある商品と、チャネルや国・地域を超えたブランドならではの顧客エクスペリエンスによって定義される革新性と本物志向のコミットメントを共有しています。タペストリー・インクは総合力を発揮して、お客様に感動を与え、コミュニティに力を与え、ファッション業界をより持続可能なものにするとともに、公平で、インクルージョンとダイバーシティーに富んだ企業へと進化していきます。個々の象徴的ブランドがひとつになることで、無限の可能性を追求できるのです。タペストリー・インクの詳細については <http://www.tapestry.com> (英語のみ) をご覧ください。タペストリー・インクの普通株式はニューヨーク証券取引所でティッカーシンボル TPR で取引されています。

当プレスリリースには将来の見通しが含まれていますが、実際の結果は事業に及ぼす様々なリスクや不確定な事由により現在の見通しと異なる可能性があります。タペストリー・インクは、法律で求められる場合を除き、いかなる理由でも当資料に含まれる将来の見通しに関する記述内容を修正または更新する義務を一切負いません。

###